

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム さくら 花泉 B棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900090		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホームさくら 花泉 B棟		
所在地	岩手県一関市花泉町涌津字二の町43-1		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 16 日	評価結果市町村受理日	平成27年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900090-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げているように「そのひとらしさ」とはなにかを考えた日々のケアにあたっている。年度初めには全職員から年間の目標を募り今年度は、「利用者様の立場に立った、心のこもったケア・介護を目指す」が選ばれた。
 ・地域の方々との交流も増えており、敬老会では近所の方が多数参加され、地元のボランティアの踊りの慰問など一緒に見られるなど今までになかった取り組みが合った。
 ・ホーム裏の畑では、野菜など四季折々の収穫物があり、利用者様から教えられるところがたくさんあり、お互いに大切な存在であることが実感できる。
 ・終末期ケアということで、ご本人、家族、医療との連携を取りながら「そのひとらしく」生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは「利用者の立場に立った心のこもったケア・介護を目指す」を取り組み方針に掲げ、入浴は入りたい日、入りたい時間に、入りたいだけ入れるほか、可能な限り利用者の思い・要望を汲み上げてドライブや個別の外出希望を叶えたり、利用者が満足するまで願い・思いをじっくり聞くよう対応している。毎月のホーム内喫茶店では、利用者は季節に応じた飲み物を味わいながら楽しい寛ぎのひと時を過ごしている。また、面会や全家族に毎回出席案内している運営推進会議等を通じて家族からは意見・提言が多く引き出されケアや運営に活かされている。一方で施設長、管理者の豊かな知識・経験等が会議等を通じて絶えず職員に伝えられ、各職員は常に自らのあるべき対応を考えながらケアの実践に努めており、利用者への対応力が着実に高められてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム さくら 花泉 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念だけでなく、毎年全職員からホームの目標を募り、数カ所に掲示している。今年、「利用者様の立場に立った心のこもったケア・介護をします」が選ばれ、自分たちの考えたより身近な理念を掲げ実践につなげている。	理念を踏まえた本年度の取り組み目標「利用者の立場に立った心のこもったケア」を話し合いにより作成し、ミーティングで絶えず確認し対応を振り返りながら、どのような対応が利用者の満足につながるか、全職員意識しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	春と秋の互市は皆さん楽しみにしており、必ず参加し野菜や花の苗など購入した。また、敬老会には近所の方々も参加され一緒にお祝いをしてくれたり、少しずつではあるが地域の方に受け入れられてきたように思う。	散歩や買い物等で地域の方と挨拶を交わしたり、おすそ分けに来られる方もいる。また春秋の「互市」での買い物や近くの市の支所広場での「花泉夏祭り」を楽しんでいるほか、近隣の声掛けにより敬老会等に参加される方も増えてきている。行事には踊り等のボランティアも来訪している。	地域交流室の有効活用も考えながら、地域へのホーム理解をさらに深める取り組みを工夫され、幅広く地域の人達との交流が図られるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や通院時の途中相談される時もあり、その都度対応しているが、改まった取り組みはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・家族など地域の方々に参加していただき、ユニットごとに日常生活のエピソード・取り組み・状況など報告している。	利用者の状況や事業計画・実施状況を中心に話し合っており、毎回、各委員から活発に質問や意見・提言等がある。「ホーム行事への知人・友人等の参加の声掛け」や「職員の待遇改善」の提言等は採り上げて、サービスや運営の改善・向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に参加市職員へ実情や取り組みを伝えている。また、利用者様の行政サービスや困難事例など市役所やかかりつけの精神科へ相談し協力を得ている。	支所福祉課とは運営推進会議を通じて運営やケアの状況を伝えるとともに、疑問や相談ごと、照会、申請等がある場合は、随時本庁関係課と電話や訪問対応を行い、その都度丁寧に指導助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束やスピーチロックについての勉強会を行ったり、毎朝のミーティングなどで意識付けを行っている。門と玄関は安全上夜間のみ閉めている。	内外研修の機会や法人全体研修等で身体拘束排除の研修機会を設け、施設長自ら講師を務め全職員で意識の共有を図り実践している。今年度は「グレーゾーンケア」に着目しながら、掘り下げた研修を積み支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などの研修会に参加し、職員にも会議などで全員が周知できるようにしている。安定しない利用者様に対しても、極力安定剤など使用しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、施設内の会議で全員が学ぶ機会を設け、制度を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	看取りや医療に関する事業所の方針や契約内容についての説明を十分に行っている。又、退所の際にも今後の不安などに寄り添えるような関係を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を玄関に設置しいつでも意見を頂けるようにしている。面会時や行事などの機会に意見交換できるような関係づくりに務めている。	運営推進会議や面会、行事、介護計画の見直し等の際に話しやすい雰囲気づくりに配慮しながら、利用者・家族の意見・要望をきめ細かく把握するよう努めている。運営推進会議の出席案内は毎回全家族に行っている。老朽化している外出用車両に関することや、玄関に職員の名前と顔写真入りの一覧を掲げるなど意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングなどで職員が意見を出し合っている。週1回の管理者会議などで直接本部への要望だったり意見を言える場があり、すぐ対応、改善してくれる。	職員会議においては、管理、業務運営全般について職員は率直に意見・要望等を述べており、出された意見等はすべて、経営者も参加する「管理者会議」で検討され運営に反映される仕組みとなっている。勤務シフトや事務の進め方等も、職員間の話し合いで円滑に調整し、取りまとめるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回自己評価に基づき、各自の能力や実績を考慮し賞与や給料などに反映できるようにしている。また、秋には一泊の職員旅行を実施しスタッフ間の交流、絆を深めることができ、意欲向上に繋がった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人の能力に応じた研修内容での参加を行いスキルアップできるようにしている。新卒職員にも理解しやすいように本部で一括して指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会にに参加し他施設との交流・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に、本人から生活における不安や要望など聞き取りを行い顔を覚えていただけるように務めている。センター方式を使用し入所後の本人の状態についての把握を行いお互いの信頼関係の構築に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族からの情報、要望や不安をシートに書き込んで頂いている。面会時にはこちらから話しかけ家族の悩みなどを打ち明けやすい関係に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には事前調査を行い必要な支援を見極め、本人の状態をアセスメントし医療機関や家族と相談しながら他サービスを紹介しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で花壇の手入れや畑作業などスタッフが教えていただくことも多く、利用者とスタッフが互いに必要な存在として関係を結べるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などでも一緒に楽しめるようなゲームなど行うことで他利用者への理解も深まったと思う。病状の安定しない利用者のご家族には通院時同行してもらい、直接医師から説明を受け、今後の経過及び対応など話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お部屋には本人の馴染みのものを持ってきていただき家族と一緒に居室の環境づくりを行っている。家族との関係が途切れないように支援している。	本人の会いたい人や行きたい場所を出来るだけ聞き出して、実家や馴染みの場所、身内や友人・知人等のところに出かけたり、訪問してもらっている。なお、訪問理容師や近くのスーパー、買い物先の店員さん等とも新たな馴染みの関係ができ、会うことが楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、席の配置をしている。簡単な作業を行うときは、席など関係なくみんなで集まって行うことで、誰とでも関わるができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、施設に会いに出向き近況を伺ったり、職員さんと情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者がどのような希望があるかを知り、できる限り本人の意向に添えるよう、また職員同士共通理解できるよう申し送りノートなどで共有している。	利用者との日常の会話や表情と併せて、その都度書き加えている本人の「暮らしの情報」をもとに、思いや希望の把握に努めている。職員との会話を糸口に昔の懐かしい思い出が呼び起され、楽しく充実した語らいのひと時を経験した利用者もあり、このような「声掛けの成功事例」を増やしていきたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から利用者についての生活歴など情報シートに記入していただき、馴染みの関係を継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を記録に残し周知徹底に務めている。心身状態や有する力等の見極めを行い、本人の残存能力の低下を防ぐ為にも過剰なケアにならないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望とご家族の以降を取り入れ職員間での話し合い、カンファレンスをもとに作成している。状況によっては、看護師等他職種の方からの意見を取り入れたりしている。	アセスメント結果および利用者担当の意見を参考に利用者・家族の希望等も汲み入れ、計画案を作成し、職員カンファレンスでの検討を経て決定し利用者・家族の同意を得ている。評価・見直しは6か月ごとであるが、状況変化に応じて随時見直しを行い、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を見てケアプランに上がっていないことなど、必要に応じて個別対応表に記入している。気づきをすぐに生かすことができるようにし、ケアが継続性を持ったものとなるように務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりの状態を的確に捉えられるようにスタッフの気づきを大切に、そのときどきに生まれるニーズに対して柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加はもちろん、普段の買い物などでも選び、支払いができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院にかかることで、緊急時の対応など受け入れて頂いている。受診はホームで行っているが、検査などの時は家族に同行をお願いしている。通院時の結果などは電話や家族報告書にて報告している。	主治医は本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は利用者の健康状態を把握している職員が対応し、受診結果は電話等で家族に報告しているほか、毎月の「お便り」で利用者の健康状態を報告し安心感を持たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(南光病院)には月2回の定期訪問と緊急時の対応、相談をお願いしている。質問や困っていることを相談しやすい関係ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関への情報提供はもちろん、様子を伺いに訪問し、医師や看護師と回復状況や退院時期についての相談や確認を行っている。リロケーションダメージが予想される場合も早期退院ができるよう話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の重度化、見取りに関する指針があり、入居時に同意を得ている。また、面会の際にも今後のリスクについて説明を随時行っている。	「終末期の基本的な考え」を作成し、本人、家族の願い・希望に沿って看取りの支援を行うことを説明している。かかりつけ医との連携のもと家族を交えて十分話し合い、容態が変化するごとに意思確認をとり、方針を共有しながら看取り支援を行っており、揺れる家族の気持ちに寄り添いながら丁寧な支援が実践されている。	重度化・終末期の支援の積極的な取り組みと実績を踏まえて、今後、医療部門との連携やホームの体制、技術面のあり方等についてさらに工夫・研究を重ね、終末期の支援が一層前進していくよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、早期発見、早期対応に備えている。ひとりひとりのファイルに主治医や内服薬、家族への連絡等ひと目でわかるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災通報装置を実際に使用しての訓練を実施。利用者が安全に避難できるよう、繰り返し訓練している。地域住民の理解を得て、災害時に協力していただけるような体制を整えていきたい。	職員による避難経路等のシュミレーションをもとに、年2回、自動火災通報装置を使用した夜間想定避難訓練を近隣住民の協力も得ながら実施している。IH器具使用で火気の取り扱いはないが、コンセントの埃が危険なので点検シートにより定期的に点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの出身の方言を使うなど本人を把握した上で、本人本位で行えるようにしている。また、スタッフ同士でアイコンタクトを用いてプライバシーに配慮している。	利用者を年長者として敬う気持ちを基本に持ちながら、利用者の誇りやプライバシー、羞恥心に配慮したこまやかな対応、丁寧な言葉遣いに心掛けるとともに、日々対応を振り返り、注意し合いながら利用者への対応の改善・向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも利用者さんに選択してもらい様な関わりを心がけている。思いの表出が困難でも表情や仕草から読み取ることにも努め、お互いに情報交換をし自己決定ができるよう関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で利用者さんがしたいことなど声をかけ、小さな声に耳を傾けるようにしている。外出したり、日向ぼっこをするなど一人で過ごしたり皆と過ごしたり自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方には選んでもらい、髪型などの整容などいつでもおしゃれを楽しめるよう支援している。外出や敬老会などの行事の時にはいつもよりおしゃれすることで更に楽しんでいただけるよう気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを把握した上で一緒に下準備などすることで満足感や食欲増進に繋げている。買い物で季節を感じて頂いたり、畑の野菜と一緒に収穫することで楽しく、美味しく食べられるよう支援している。	献立作りは、利用者の希望も取り入れながら職員が順番制により行い、定期的に外部の栄養士の助言を得ている。時には出前食や配達弁当も楽しんでいる。また、調理の下拵えや下膳、食器の洗い・拭きなど食事の準備、片付けに利用者を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分量のチェックを行い、食事量が少ない場合には捕食や本人の好むものを提供している。バランスの良い食事が取れるよう配慮しながら、地域柄を生かした献立なども取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを習慣化している。就寝前には義歯洗浄を行い、誤嚥性肺炎や歯槽膿漏などの予防に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかむためにチェック表を用い、夜間も声がけや定時誘導を適宜行い自立した排泄を支援している。尿意のサイン、表情なども見逃すことなく羞恥心等にも配慮し快適な排泄の支援に務めている。	トイレでの排泄は快適な生活上、最も基本となることから、排泄チェック表による把握と併せて、ひとり一人のしぐさ、表情を職員全員で注意深く見守りながら、その人に応じてさり気なく声がけをしてトイレ誘導し、羞恥心や不安を覚えぬ気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためにヨーグルトや乳製品の提供を行い、水分強化等を行っている。動きの少ない方でも、腸管運動が促されるようなレクリエーションや腹部のマッサージなどで自然排便ができるよう手助けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施しているので希望時にはいつでも対応している。入浴できない日は、清拭や足浴でリラックスできるよう支援している。	週2～3回入浴している人が多いが、希望により毎日利用している人もおり、10時～17時の間、いつでも入浴できる。浴室には手すりや足浴用の長椅子もあるほか、本年度新たに機械浴設備が入り、安全快適な入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や夜間の入眠状況を確認しながら休息を取れるようにしている。夜間の良眠に繋がるように日中の活動もそれぞれの方に合わせ、ゆっくりした気持ちで過ごせるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに閉じ、いつでもスタッフが確認できるようにしている。新しく処方された場合などは、副作用や予想される症状など張り出し、特変事にすぐ対応し医療機関への報告、指示を受けることができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に即した家事や畑仕事など個人の能力を生かした役割を支援している。外気浴や音楽鑑賞など、好みにあった活動を準備し臨機応変に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に考慮しながら、要望があればいつでもドライブに出かけている。入院中の娘への面会なども臨機応変に対応したり、家族の協力のもと、お墓参りや学校行事などの参加にも随時対応している。	日常的にホーム周辺を散歩したり、買い物に同行したりしている。周辺には名勝地、観光地が多く、季節の花見や紅葉狩りのほか、いつでも希望に応じてサファリパークや厳美溪、伊豆沼、道の駅などへのドライブを楽しんでいる。また、家族の協力を得ながら一時帰宅や墓参り、行事見学等を楽しんで貰えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はご家族と相談しながら自己管理できる方のみ所持し、外出時以外にも買い物など希望時はスタッフと一緒に出かけ自由に買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話を使用していたっている。誕生日や季節の変わり目に衣類等届くことがあった場合も、すぐに電話にてお礼の言葉を伝えている。できない方は、写真を撮り送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各種行事の写真を掲示したり、季節の花々を飾り、畑で採れた季節の野菜を献立に取り入れている。トイレや居室など個人ごとに工夫し混乱しないようにしている。	リビング兼ダイニングは台所とも一体で、利用者と職員が家庭的な雰囲気です食事をし、語り合い、見守り、作業等をするのに適度な広さで、木製のフロア、柱は目にも柔らかい。壁には利用者の写真や手作りの切り絵や塗り絵、刺繍作品などが程よく飾られ、寛いで居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	園庭で日向ぼっこしたり、外気浴を楽しんだり、時には皆さんと一緒にゲームなどをしたりと、一人ひとり自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族の協力を頂き、自宅で使用していた馴染みのものを持ち込んでいただき、使用できるよう少しでも安心して過ごせるよう配慮している。家族の写真など思い思いの空間で過ごせるようにしている。	居室は快適な床暖房でベッド、クローゼットが備え付けられている。室内には馴染みの置物や位牌等も置かれ、利用者は思い思いのベット配置や衣装ケースを置く等、自宅に近い居室作りをしながら個々に動線を重視した居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体機能や生活習慣に合わせてベッドや布団など安心して過ごせるよう気配りしている。機能低下に伴い必要に応じて手すりなどの設置、利用者にあった車椅子など随時検討している。		